

# 楽しい体を動かす遊びで 運動の持ち越しを図る



調査結果から、小学校入学前から運動が好きだった児童の多くは、小学生になっても運動が好きであり、運動する時間も長く、体力合計点も高い傾向がみられた。一方、体力・運動能力の低下は低年齢化しており、幼児期からいろいろな内容の運動を経験することが重要である。このような観点から、平成24年3月に「幼児期運動指針」が示され、様々な遊びを中心に楽しく体を動かすことが提唱された。また保幼小連携も重要な取組として位置づけられている。ここでは、幼少期におもしろくのめり込む多様な動きを経験できる取組を積極的に展開している地域の事例を紹介する。

## 保育所・幼稚園と小学校が連携した取組の重要性

子供の発育発達を縦断的に継続して見守ることは、子供の心身を健やかに育むために重要な視点となる。すなわち保育所・幼稚園と小学校が連携し、園児と児童が交流し合うとともに、保育士と教員とが保育内容・教育内容を共有していくことも非常に重要であるといえる。また取組のねらいや内容に関して、家庭や地域に発信し、共通理解を得ることが必要である。

北海道標津町教育委員会では、保育士と教員と一緒に学ぶ研修会や保幼小合同の「親子ふれあい広場」を、年に複数回開催している。こうした機会に子供の現状、問題の解決方法、

## 取組のポイント

- 保幼小が連携して、継続的な視点で子供を捉えていく
- 保育所・幼稚園と学校での取組を、保護者や地域住民に発信する
- おもしろくのめり込む体を動かす遊びの実践が運動の持ち越しにつながる
- 保育士・教員・保護者がプレイリーダーの役割を担う

point

取組の重要性と目的を共有することで、子供の育ちを連続的に捉えることができるようになる。

また鳥根県雲南市教育委員会では、幼児期から中学校期までのキャリア教育の柱として「夢」発見プログラムを作成し、その中で運動の推進と生活リズムの改善を掲げている。具体的には、保育課程・教育課程を見直し、体を動かす遊び・身体活動に関する共通理解・共通認識を課題として取り組んでいる。

## 子供がおもしろくのめり込む 体を動かす遊びの実践

幼少期の子供には、運動を指導するのではなく、保育士や教員がプレイリーダーとなり、子供たちの「遊びたい」という欲求を引き出す環境を構成することが重要である。こうした経験が、将来の運動の持ち越しにつながる。

雲南市では、子供の「やってみよう」「なってみよう」気持ちを大切に、保育士・教員が、多様な動きを経験できるような援助をすることに力を置いた体を動かす遊びを展開している。

標津町は町内の保育所・幼稚園・小学校にプレイリーダーを派遣し、特に保育課程の中に週1回の遊びタイムを設定している。



▲プレイリーダーの動きをまねている子供の様子（雲南市）

取材  
記録遊ぶおもしろさ・動く楽しさをいっぱい体験しよう  
～検討委員による 標津町教育委員会 訪問調査から～幼児期の運動促進に関する  
普及啓発事業を  
ベースにした取組

人口約5,600人、1学年の児童数約50名の北海道標津郡標津町。標津町教育委員会は、子供の運動不足とそれに伴う体力低下に危機感を抱き、平成21年から「子供の体力向上事業」に取り組んできた。特に幼少期においては、多様な運動経験の中で様々な動きを身に付けていくことが重要であり、スポーツ指導ではなく、体を動かす遊びの中から健やかな体と豊かな心を育てていくことが求められるという考えにいたった。

平成24年に、子供を対象とした我が国初の身体活動ガイドラインである「幼児期運動指針」が出され、文部科学省により、その普及啓発のためのモデル事業が設定された。標津町教育委員会は、平成25年度「幼児期の運動促進に関する普及啓発事業」、平成26年度「幼児期の運動に関する指導参考資料作成事業」をそれぞれ受託し、これらの事業をベースに、保幼小連携を捉えた体力向上事業を進めている。



▲家族みんなで準備体操

幼少期を通して継続可能な  
体を動かす遊びの実践

標津町では、子供たちが「おもしろく遊ぶこと」「楽しく動くこと」を体験できる体を動かす遊びを、保幼小の連携を図りながら、保育所・幼稚園及び小学校で継続的に実践している。

そのためにプレイリーダーを保育所・幼稚園や学校に派遣するとともに、

保育士・幼稚園教員・小学校教員と一緒に参加できる講義や体を動かす遊びの研修会を年3回開催している。

さらに家庭や地域との連携を図るために、「親子遊イングセミナー」「キッズ親子キャンプ」「親子ふれあい遊び」といった取組を、年10回程度開催している。

標津町は、10月に初雪が降り、5月まで積雪があるという厳しい自然環境下にある。必然的に、冬期の基本的な動きの経験と運動量の確保が課題となる。そり遊び、雪合戦、スキーやスケートといった雪国ならではの冬期の遊びやスポーツの実施とともに、屋内でも実施可能なおもしろい体を動かす遊びを提供し、考案していくことが課題となる。今後保育士・教員、総合型地域スポーツクラブの指導者による自主的な研修会の開催が望まれる。

## 担当者の声

体を動かす遊びがマンネリ化しないように、常に遊びを提供できるような指導者のための研修を多く取り入れています。また生活習慣の調査、基本的な動作の評価、運動量の測定、保護者を対象とした意識調査から、客観的なデータを用いて、取組の評価を行っています。



▲すき間をぬけてみよう!